

### 平成29年度 第2回(通算56回) ソフィア発見講座(報告)



実施日 平成29年11月29日(水) 18:00  
 会場 磐周教育研究所 大会議室  
 主催 研究所 活動推進委員会  
 テーマ 「視点を変えると人生が変わる」  
 ～転職、そして国際交流・支援を経て～  
 講師 鈴木 光男氏  
 聖隷クリストファー大学社会福祉学部  
 こども教育福祉学科 教授

#### 1 主催者挨拶並びに講師紹介(委員長 兼子 修美 磐田中部小学校長)

ソフィア発見講座は、毎回、私たちの身近にいる方の中から『豊かな感性』を育成する触媒になっていただけの方に登場願っています。今夜は、聖隷クリストファー大学の「鈴木光男」さんです。光男先生が磐周支部(教職現場)から去る時一緒に勤めていました。その後、東京未来大学の准教授となり、昨年からは聖隷クリストファー大学にお勤めです。光男先生は、地域に新たに自分の根を根付かせようとネットワークを張りめぐらせながら、私たちが知らない人たちとのネットワークを結んでいます。先生のお話は、私たち教職員が第2の人生を考える手本となるのではないのでしょうか。そして、私たちの心の中に「種」として残っていくのではないかと思います。

#### 2 講話



東京未来大学の時、カンボジアで支援をしているときに「future」(未来)という言葉はカンボジアにはないことを知った。明治時代、日本にも「未来」という言葉はなかった。明治時代の頃の人たちが作った言葉である。

「情報」というとスマホやパソコンの文字。情報は「情に報いる」と書く。私に情に報いる形で入ってくることが情報であるということ学んだ。

青城小学校時代、みっともない自分を忘れてはいけない。子供にとって少しでも価値ある教師になりたいと思った。隣のクラスのふじみ先生。自分にあつてふ

じみ先生にないものを考えた。若さ、美術・・・一日3回着替えるほど全校の生徒と遊んだ。また、自分の得意の美術を生かして、教室のいたるところに「掲示」をした。授業や学級づくりのスキルも上がらないのに子供が変わってきた。ネガティブな状況はいっぱいあるが、やれるかぎりのことをやろう、子供にとって少しでも価値のある教師になろうと思って進んできた。

『視点を変える』・・・上へ上へという視点。下へ下へという視点。個人の中のことが、左へ右へとも視点を変えられる。いろいろな業種、いろいろな文化の人と出会うことができた。カンボジアに支援をしているがそういった体験の中で『視点』を変えることができた。

当初、子どもをうまく動かす先生がよい先生と思ったので、子どもの動かし方を学ぼうと思った。しかし、うまく動かそうとすると反発する子どもたち。うまく動かす先生ではなく、うまく育てる先生がよい先生であると分かった。

<小学校教員時代のライトマン(光男)>

学級だよりを相当出した。1年間で236号。1日2号出したこともある。図工が専

門。目と手をつむぐ生活造形学習。山香小学校では「お弁当ありがとう」の実践。夢のお弁当を身のまわりの材料で作った。お母さんに「こういう夢のお弁当を作って！」というお手紙を届ける。土曜日の朝、本物の夢のお弁当を実際に作ってもらったり、自分で作ってみたいりする。

磐田北小時代、「土器を作ろう」野焼きをやってみようと思った。45人5クラスの人数。225人分を運動場の真ん中で焼いた。子どもたちの作品を見付公民館で展覧会開催。「現代土器工夫展」のための準備を子どもたちと行った。

東部小時代、運動会で「たんぽぽのちえ」のミュージカルをやった。生活科、音楽、図工、国語を取り混ぜた作品づくり。「ドウフンの竜神様」で影絵劇を作り発表した。

#### <磐田クスノキ大学への思い>

磐田クスノキ大学としての活動。

あきらめず、無駄と思えるものでも「ワイガヤ」から生まれるものを信じて。磐田を **Tinker**、何かをいじくりまわすうちに何かができるということを経験してみようとして実践している。



#### <人生100年時代>

どんどん平均寿命が延びている。まだまだ社会に貢献できるし、人生を楽しめる。誰も今後どうなるかどんな時代がやってくるかわからない。

日本は、自分が創造的だと思う若者が少ない。と聞く。教員から見ても自分のクラスの子どもは創造性が低いと答えている。人生100年時代、これでよいのか。

アメリカでは自分は創造的だと思う若者が多い。日本の若者は、これからある未来、不安なまま迎えるのはかわいそう。キラキラしたものが周りにあるのに。.....

学力の三層構造では真ん中に「感性」が入っている。見方を変えると行い方が変わる、行い方が変わると人生が変わる。

#### <質疑から>

Q：自分も30才になる。何か自分を変えたいという思いがあるが、リスクがあったりして変えられずもやもやしている。お話を聞いて、新しい視点が見つかったなと思った。学級だより200号以上を出すためには、どのようなモチベーションで行っていたのか？

A：子供にとって少しでも価値ある教師になりたい、やれることをやりたいというただそれだけの思いでやっていた。布団に入ると明日こんな授業をやりたいと思ってしまう。常に座席表を持ち歩き、記録をしていく。あとからそれを見ると1日のいろいろな場面を思い出す。保護者は、学校でどんな教育をしているかがわかると味方につけられる。自分が「こういう教育をやりたい」と思ったら信念をまげずやり続ける。理解をしてくれる管理職の助けがあってこそ.....

### 3 お礼・終わりの言葉

(顧問 神谷 比登美 富士見小学校長)

情熱的、感動的なお話をありがとうございました。展覧会をしたい、ミュージカルをしたいといったゴールを見据えた単元構想力。人と人をつなげてしまう発想力。子供にとって少しでも価値ある教師になりたいという教師に教わって子どもたちは本当に幸せだったんだと感じました。

新学習指導要領の実施に向けて、どの子どもも全力で学ぶ子どもたちを育てていきたい。

ボランティアは、理解することというお言葉から、もし色に例えるなら無色透明の心で子どもたちを見なければならぬと思いました。

今日は、ご多忙の中、ありがとうございました。



もし、今、学級担任をしたらこんなことをやってみたいというものはあるか。  
自分も夢中になってやりたいが子どもたちにも夢中になってやってもらいたい。

